



水田裏作タマネギの耕うん 同時畝立て施肥マルチ栽培 定植までの1カ月間 土壌中の養分保てる

水田裏作品目としてタマネギが推進されています。しかし、定植前に降雨があると定植準備や定植が遅れ、減収するケースがあります。そこ

耕うん同時畝立て施肥マルチ栽培は、水稲収穫後の施肥から定植まで1カ月程度、空きます(耕うん同時畝立て施肥マルチが10月下旬～11月上旬、定植が11月下旬～12月上旬)。

そこで、この1カ月程度の期間に畝内の土壌養分の推移を調査し、窒素成分が保持されているか明らかにしました。

その結果、施肥と耕うん同時畝立てマルチ被覆から、定植までの期間(30～38日間)に降雨があっても、畝内土壌中の電気伝導度(EC)と無機態窒素は、保持されていました(図)。

また、畝内土壌中の無機態窒素の組成割合は、時間の経過とともにアンモニア態窒素が減少し、タマネギが好んで吸収する硝酸態窒素が増加することが分かりました。

(県農林技術開発センター 土壌肥料研究室主任研究員 齋藤晶)

で、降雨前の作業性の良い時期に耕うんと畝立て施肥マルチを同時に行うことで、確実に適期定植ができる栽培技術の開発に取り組んでいます。